

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成20年11月13日(2008.11.13)

【公表番号】特表2008-514627(P2008-514627A)

【公表日】平成20年5月8日(2008.5.8)

【年通号数】公開・登録公報2008-018

【出願番号】特願2007-533699(P2007-533699)

【国際特許分類】

C 0 7 D 211/58 (2006.01)

A 6 1 K 31/4468 (2006.01)

A 6 1 P 25/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/14 (2006.01)

A 6 1 P 25/16 (2006.01)

A 6 1 P 25/18 (2006.01)

A 6 1 P 25/20 (2006.01)

A 6 1 P 25/22 (2006.01)

A 6 1 P 25/24 (2006.01)

A 6 1 P 9/12 (2006.01)

A 6 1 P 7/02 (2006.01)

【F I】

C 0 7 D 211/58 C S P

A 6 1 K 31/4468

A 6 1 P 25/00

A 6 1 P 25/00 1 0 1

A 6 1 P 25/14

A 6 1 P 25/16

A 6 1 P 25/18

A 6 1 P 25/20

A 6 1 P 25/22

A 6 1 P 25/24

A 6 1 P 9/12

A 6 1 P 7/02

【手続補正書】

【提出日】平成20年9月25日(2008.9.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 2 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 2 6】

請求項 1 に記載の少なくとも 1 種の塩を含有するモノアミン受容体の活性阻害用医薬組成物。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 2 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 2 7】

請求項 1 に記載の少なくとも 1 種の塩を含有する神経精神病治療用医薬組成物。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 2 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 2 8】

前記神経精神病が、精神病；統合失調症；分裂情動障害；躁病；精神病性うつ病；情動障害；認知症；不安神経症；睡眠障害；食欲不振；双極性障害；高血圧に続発する精神病；偏頭痛；血管痙攣；虚血；運動性チック；振せん；精神運動遅延；動作緩慢；及び神経障害疼痛から成る群より選択される、請求項 2 7 に記載の神経精神病治療用医薬組成物。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 2 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 2 9】

請求項 1 に記載の少なくとも 1 種の塩を含有する神経変性疾患治療用医薬組成物。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 3 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 3 0】

前記神経変性疾患が、パーキンソン病、ハンチントン病、アルツハイマー病、脊髄小脳萎縮症、ツレット症候群、フリードライヒ運動失調症、マシャド・ジョセフ病、レービー小体型認知症、ジストニア、進行性核上麻痺及び前頭側頭型認知症から成る群より選択される、請求項 2 9 に記載の神経変性疾患治療用医薬組成物。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 3 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 3 1】

請求項 1 に記載の少なくとも 1 種の塩を含有するドーパミン作動性療法に関連するジスキネジア治療用医薬組成物。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 3 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 3 2】

請求項 1 に記載の少なくとも 1 種の塩を含有するドーパミン作動性療法に関連するジストニア、ミオクロヌス又は振せん治療用医薬組成物。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 3 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 3 3】

請求項 1 に記載の少なくとも 1 種の塩を含有する血栓状態治療用医薬組成物。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 3 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 3 4】

前記血栓状態が、心筋梗塞、血栓発作、虚血発作、特発性血小板減少性紫斑病、血栓性血小板減少性紫斑病、抹消血管疾患、並びにレイノー病から成る群より選択される、請求項 3 3 に記載の血栓状態治療用医薬組成物。

【手続補正 10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 9】

一実施形態では、式 V I I I のリン酸塩の結晶形態を提供し、これは図 6 で示される粉末 X 線回折パターンを示し、以下、結晶性リン酸塩と称される。具体的には、粉末 X 線回折パターンは、d 値 () で表わされる以下の特性ピークを示す。17.3 (vs)、10.1 (m)、8.9 (m)、6.7 (w)、6.5 (m)、5.91 (s)、5.74 (m)、5.16 (w)、4.93 (m)、4.80 (m)、4.75 (w)、4.56 (m)、4.27 (m)、4.14 (m)、3.86 (m)、3.55 (m)。様々な実施形態では、結晶性リン酸塩が少なくとも約 50 %、約 70 %、約 80 %、約 90 %、約 95 %、又は約 98 % の量で存在し、残りは、式 I の化合物の他の塩又は結晶形態 (水和物及び溶媒和物を含む) 及び / 若しくはアモルファスである。

【手続補正 11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 4 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 4 2】

粉末 X 線回折パターン (P X R D) を 図 8 に示し、特性ピーク (2) を、対応する d 間隔の値 () とともに表 8 に示す。

【手続補正 12】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 4 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 4 3】

【表 8】

表8:式 Xの化合物の d間隔

角度[° 2θ]	d間隔[Å]	強度(定性的)
2.9	30.8	w
5.2	17.0	vs
9.2	9.6	m
10.7	8.3	w
11.5	7.7	vw
13.1	6.8	m
13.9	6.4	m
16.1	5.49	vs
16.7	5.29	w
18.5	4.79	s
19.1	4.65	m
19.6	4.53	s
20.1	4.42	m
20.6	4.30	vs
21.2	4.18	m
21.4	4.15	s
22.0	4.04	m
22.9	3.89	w
24.7	3.60	m
25.0	3.56	w
26.3	3.38	vw
27.0	3.30	w
28.0	3.19	vw
28.5	3.13	vw
29.2	3.05	vw
31.6	2.83	vw
32.7	2.74	w